



# 尚 操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校

尚操会

〒682

鳥取県倉吉市秋喜20

倉吉西高等学校内

印刷 (有)矢積印刷



平成5年6月11日早朝

## 花・水・木

この頃、時の経つのが早く感じられる。時は誰にでも同じ条件で授けられているのだが、「お金」のことでは節約とか、有効な使い方を心掛けているが、時間の使い方には意外と金銭ほどの切実さがなくルーズになりがちである。

私の場合も仕事と家事育児でエネルギーを消耗し、それがすべての生活であったが、ようやく月に何回か私自身のために使える時間がとれるようになった。

念願だった陶芸を習い始めて一年が過ぎた。はじめは形など知らわれず、とにかく多く作りたい一心であったが、この頃は、作れば作る程むずかしさ、奥の深さを感じ、日頃何気なく使っている茶碗や皿にも目をとめるようになってきた。

あせったり、他の事に気をとられると作品の表情に映し出されるので、ロクロに向う時は気持ちに余裕をもつようにしている。いつかは近くの窯場を訪ねたり、各地のやきものの里へ旅行したいと思う。

今後ますます増えるであろう時間をどう使いこなすか、あれこれ構想中である。

(西高一五回 田中美紀)

# 母校の発展 飛躍を願う

副会長 道祖尾 篤彦



八十周年記念事業の募金へご協力ありがとうございました。ございました。幾多

の変遷を経て、倉女時代四十年、倉西に生まれ変わって四十年、諸先輩が築き上げられた伝統ある尚操会の新しい幕開けとして、来年の八十周年に向けて記念事業が推し進められている今日です。

私達先輩に期待を寄せられる母校も、七十周年記念事業の「みどり」ある学園、西高ルネッサンスの始まりから未来を見据えた創造へ、さらに国際化時代の幕開けとも言える海外研修へと、また、先輩の平和への思いを今に生かそうと平和教育を推進されていることなど聞くにおよび感無量なものがあります。

尚操会が地道な活動をつづけるなかで、関東支部、関西支部が結成され、九州支部の結成準備も進められているやに聞いております。尚操会はややもすれば倉女の同窓会の感があったのですが、近年、西高・倉女一体となった運営がな

されています。

先般、米子において春の高校野球大会があり観戦に行きましたところ、二回戦で惜しくも負けはしましたが、保護者・先輩の応援の多さに驚き、母校を想う熱心な方々に改めて感謝致しました。

職場におきましても、三十才代、四十才代のパワーあふれる同窓会員がたくさん居られます。会報の同窓生だよりに、三谷昇さん(西高19回生 関金小学校教諭)の次のような一文がありました。

「西高時代の熱い思いをどう伝えるのか、西高に係わる人々の中で、自分を大きくしていただいた分だけ自分がどう返していただくか問われる年になった。」

会員の母校を思う心、母校の発展・飛躍を願う気持ち、後輩(生徒)“先生”、会員“三者一体”となって来年の八十周年記念事業を推進しようではありませんか。



## 九州支部結成 第一回総会開催

去る六月二十七日、梅雨空のわずかの雲間を縫うような夕々の晴天に恵まれ、本部から高橋副会長、国本教頭、田村主事のお三方をアークホテルにお迎えし、出席会員十六名(実質在住八十一名)という少数ながら厳粛な発会式と共に九州支部結成の産声が上がりました。集まった方々には四十四、五才の子育てを開放された方々から七十四、五才に至るまで三十年の巾はありましたが、自己紹介と共に語られる数々の思い出の中には共通して余戸谷町の旧校舎が浮上りました。一方では今から迎える三十年後の自分を夢見て何かを始めようとしておられる方々の希望に満ちた話題が語られ、他方では自らに磨きをかけて来られた熟年の方



々の素晴らしい技術を見習うなど、お互いに数多くの示唆を頂きました。アトラクションでは博多にちなんで会員からの博多夜船の踊りが、また、博多にわか等が紹介され、詩吟の飛び入りがあるなど、倉女と西高の校歌をくり返し歌いながら会は感激の内に終りました。関係者一同唯々感謝でございます。最後に母校の益々の発展を願い再会を期してお別れしました。(倉女二十回 中野和子)

## 関金支部総会開催

一月二十四日第一回尚操会関金支部総会をせきがね荘に於いて開催いたしました。

西高より国本教頭先生、米山副会長、事務局竹ノ内先生をお迎えし老若会員二十三名が集まりました。組織の強化や、会員の交流をはかり親睦を深めるためには、集まる事が大切ではなからうかと昨年十一月の役員会で決議され準備をすすめました。

当日はお出で下さった方へ薄茶を差し上げ一息入れて頂き、親しい人同志又初対面の方とご挨拶を交している内に開会となりました。まずどこへ出られても貫録ナンバードワン(米山副会長の挨拶に笑ったり、ほろりとしたり、続いて教頭先生より現在の躍進する西高の状況のご説明、ご報告を頂き出席者一同うなづきながら熱心に耳を

傾けておりました。事務局より八十周年記念事業募金等についてのお話を伺い、乾杯となり順次皆さまが今昔の感をこめながらのスピーチのような自己紹介は、さすが西高出身と目を見張る思いがしました。同年代の世話人を作り毎年でも支部総会を持つことを約し。教頭先生、米山副会長の良きリードもあって和やかな雰囲気の内には校歌斉唱で幕を閉じ名残りを惜しみながら解散いたしました。(倉女三十二回 鷲見喜代子)



## 滋賀県尚操会

平成五年六月十三日(日)、西高二回の伊吹美智子さん、三回の山岡悦子さんの呼び掛けにより十一名の参加のもと草津で開催された。役員として倉女二十七回の内田貞子さんを加えて三人が世話をされ、次回も草津で開催される。

# 同窓生の交流の場を

教頭 國本 洸 紀



八十周年記念事業で学校の環境・施設整備を計画していただき、

着々進行しています。生徒職員と共にお礼を申し上げます。

早いもので、尚操会のお世話をさせていただくようになって一年が過ぎました。この間、たくさんの方とお近づきになることができ、ざっくばらんに話させていただけると感謝しています。

募金ということで、支部の役員会、総会に出席させていただき、幼時の私を知っているという方にも会い、出合いの不思議さを感じました。また、学校の方へ御出でいただいた方も例年よりも多かったのではないのでしょうか。思い出話をたくさん聞かせていただきました。その中で最も多く皆さんの記憶に残っているものが、余戸谷町の旧校舎に係わるもので、桜の花、水道山など「みどり」に囲まれた話でした。また、○先生、△先生等次々話が出て、全く分からない私が聞いてもその有様が想像でき、楽しいものでした。



現在の秋喜の西高の校地も、七十周年記念事業で樹木がたくさん植えられ鳥が住みつくようになりました。写真に見られるように、シイの木に巣を懸けたヒヨドリは今年雛が育ちましたが、よく捜したところ巣は四つもあり、初めてではないことが判りました。春にはウグイスの声も聞かれ、一年を通していろいろな鳥がやってきます。先日は、下校時ホテルが玄関前で光っていました。良い環境にあると思います。

## スキー研修 大山で一年生

平成四年二月二十五日(木)から三日間、大山寺で一年生を対象としたスキーの研修が学校行事として行われた。

昭和四十二年度に修学旅行が廃止されて、蒜山の「さわらび寮」を使っての一年生の宿泊研修と変わった。しかし、一度に学年全員を収容できないことや施設が十分なことから、昭和五十九年度に「国立江田島青年の家」での宿泊研修に変更された。遠距離等の理由から三年後には吉備高原での野外訓練に変わった。その後5年を経過して見直がなされスキーとなった。

県外では「鳥取県」といえば雪国の感覚で見られる。しかし、ほとんどの生徒はスキーをはいたこともない現状である。高校時代に経験し、自信を持って鳥取県人だといえる人材を育てたいという先生方の考えから計画されたものである。

年々雪が少なくなっていて、一週間前であった大山の冬季国体は雪不足で開会が危ぶまれた状態であったが、本校の行く前日にはこの冬一番の積雪量となり、しかも期間中天候が回復するという幸運に恵まれた。

滑った経験がないのだから、当然スキーも服装もない。全員が貸

しスキー、借り衣装である。大山寺の宿に二クラス毎に分宿し、三日間蒙山山のゲレンデに通った。十名ばかりの班に分け、班毎に専門の指導者が付いて登ったり降りたりの練習である。その甲斐があったが、始めは歩くこともできなかった者が、最後の三日目には回転し、止まることができるようになった。



基礎の第一段階はできたので、あとは興味の持って自分で取り組んでくれるものと思っている。「滑れます」と他人に伝えるようになって、初期の目的は達成された。夜はクラスごとの食事や交歓会と楽しい時を過ごすことができたらうえ、先生方は年の功で滑ることができるよう生徒に見直される良い機会となり、触れ合いの場としても成功であった。来年度も継続するよう既に計画されている。

## 八十周年記念事業募金 目標突破!

各支部の役員の方々に積極的に取り組んでいただき、現在五千数百名の方から募金をいただき、目標を突破いたしました。県外からも予想以上に寄付をいただき、母校を思う気持ちを強く感じます。半年という短期間で取り組んだため、まだ活動していただいている支部もあります。追って式典までには回毎に金額氏名を記した芳名簿を個人宛にお送りします。規模を拡大して事業を実施するよう役員会で話し合っています。

### 本部から

中島恵美子会長はお元気で、四年度総会には午前九時すぎから午後四時ごろまで長時間出席されました。上灘支部役員会にご出席、西高の卒業式、入学式にもご臨席でした。

### 関東支部

四年十一月八日、昨年に引き続き第二回目の支部総会が新高輪プリンスホテル・ボーセジュールもたれた。出席者は一〇四名、倉中の鴨水会の会員も九名参加があり、本部からも四名出席した。

### クラス会

四年度、本部より補助金を出したクラスは二十四件であった。連絡を下さい。

# 母校はいま…

## 部活

### 弓道女子中国大会 二年連続優勝

平成五年度の県高校総合体育大会が六月五〜七日と行われました。全国大会行きの切符を手にした部

経験をしている他の高校を抑えての優勝は監督・コーチ・選手の日頃の努力を物語っています。硬式野球は昨年はふるいませんでしたが、春の大会では大量失点に期待を繋いでいます。文化部も活躍しています。昨年度は放送コンクール・ビデオ部門

弓道男子個人、また、剣道女子個人、空手女子個人でした。中国大会へは、バドミントン女子団体、陸上競技男子槍投げ、ソフトテニス女子個人ダブルス、水泳三種目が出場権を得ました。その他、バスケ、トボール女子、ホッケー女子など頑張りましたがいま一歩でした。



## 平成五年度 尚操会総会案内

とき 八月二十二日(日) 十時から  
ところ 倉吉シティホテル 会費 三、〇〇〇円  
お誘い合せ、多数ご参加下さい。

と朗読部門が全国大会に出場しましたが、今年はビデオ部門で二つ選ばれました。また、囲碁では団体男子は期待されながら惜しくも敗れ個人だけになりましたが、女子団体は全国大会出場権をえました。演劇部も昨年は中国大会に駒を進め、優秀賞を獲得しましたが、今年も高得点で地区予選を突破し、中国大会を目指しています。その他、音楽部は県高校総合音楽祭で吹奏楽が銀賞、ホルン演奏で優秀賞、美術部は、県高校美術展で連盟賞、書道部は県高校書道展で連盟賞と秀作賞をとっています。今年度も期待しているところでです。(生徒会部 名越和範)

## 進学

### 今年も 記録更新

平成五年度入試は、バブル崩壊後の、見通しの不透明な不況が大きく影響し、これまでになかった現象、傾向の現れた入試になりました。不況のあおりを受けて、私大志願者が減少し、地元志向が強まるという現象、地方から関西・東京の受験が減り、あるいは四年制が減少し、地元短大が増加するという、これまでとは逆の現象も起きています。同時に国公立志向が強まり、国易私難から国難私易へと流れが変わって、就職に有利

合格先	合格数(前年数)
国公立大学	24 (20)
私立大学	113 (97)
国公立短大	21 (14)
私立短大	90 (73)
医療関係	23 (37)
各種専門	33 (26)
就職	36 (43)
浪人	63 (67)



な実学分野の学部の人気が高まる傾向も見られます。

こういう中で、本校の卒業生は本当にすばらしい活躍をしてくださいました。詳しい数字は別表にゆづりますが、国公立大・私立大・国公立短大・私立短大等すべて過去最高であった昨年の実績を上回る成績です。これは、センター試験受験者が前年の六九名から一一三名に増えたことに現れているよう

## 会員名簿

### 「尚操」

平成四年三月刊  
頒価 二、二〇〇円  
送料 三八〇円  
尚操事務局名簿係  
倉吉西高内  
二八一―一八一

## 就職

### 難しい公務員合格

平成四年度の就職者は、男二十、女十六、県外十四、県内二十の三十六名でした。今年度の希望者は男八、女十五の二十三名です。公務員希望が十名ですが、進学以上に学力を養わなければ合格が望めないほど状況は厳しくなっています。不況によって求人減らず企業が多いようです。(進路部 田中英也)

## あとがき

年一回の発行で時間的に遅くなりますが、同窓生に関するニュースで埋めたいと思います。皆様の思い出、できごとを事務局までお送り下さい。